夕刊 磐城新聞
八月二十五日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

習作（夏の月）

新妻一樂

夏の夜の月は清く美しく涼しいものである。隈なく晴れて澄み渡る良夜は殊に麗し。又雲かゝりて月の面を去來するも一入風情がある。互人が物質生活の殺伐にして單調なるより進んで何等か求めんとして之の夏の月を仰ぐ時荒涼みたる心や、疲れ果てし肉体は忽ちにして甦り新たなる歡喜と希望に浸る事が出來る。習作とした夏の月は外ならずして只に之の求めんとした氣持を生した迄の物である。幸ひ先輩諸賢の嚴正な御批判と御示教に預からば甚だ欣快光榮の至りに堪えません。尙古への名句を追憶欣慕すべく左に數句を載せて見ました

蛸壺や果敢なき夢を夏の月　芭蕉
行水の背中を濡らす夏の月　許六
蚊帳を出て又障子あり夏の月　丈草
明てのく家に伏見や夏の月　嵐雪
遠淺に兵船やなつの月　蕪村
寢る頭を尺八鬪ゆ夏の月　欣舟

サボテンの露持つ針や夜の月
潮和む生簀の旗や夏の月
夏の月草深き水の音
夏月や礁突く潮のもみ返る
夏の月あげて河口凪ぎてあり
夏の月盧一群の間より
電線のきらめき止まぬ夏の月
ウインドに夏月映る鋪道かな
せゝらぎに戶をたつ庭夏の月
ドライブの麗明るく夏の月
夏の月盧のさはげる川面かな
雲しばし高原にあり夏の月
波の穗に燈臺浮かぶ夏の月
夏の月洩るゝ湖水の木々深し
夏月や屋上園の猿の檻
なつの月飛び止まぬ大蛾かな
遠まきに雲流れけりなつの月
垣越ゆる笹穗明りやなつの月
なつの月麓に蠢くる芒原
釣戾る川邊涼しやなつの月
築港のトロ道光るなつの月
キャビンの灯波にくだくるなつの月
山門の片戸明りやなつの月
瀘洗ふ湖にのりてなつの月
庭桐の葉寂美しなつの月
なつの月入れて恭客を招じけり
鉢棚に並ぶ葵やなつの月
なつの月潮のふくれに崩れけり
さし込んで土間にみなぎるなつの月
傾いて屋根に落ちけりなつの月
投げ出せし脚靑白くなつの月
密雲の最中にほのとなつの月
庭石に湧く虫の音やなつの月
なつの月雲呼び止まず傾むけり
筧水の桶に溢ふれてなつの月
ねん側の障子明るしなつの月
浦船のなつの月より歸りけり
徐ろに浮かぶ巨船やなつの月
高原に横たふ雲やなつの月
サーカスに更けて戾るやなつの月
（未完）

三つの玩具

高瀬勝男

下

ニッケル時計

つねつね時を促する、吾がニッケル時計を玩具の類に墜すことは、少々ですぎる考へだが、吾がニッケル時計は、齡十三年を經て倚相變ずの秒を刻むゐたり、玩具として飾るものと共に好めるものである

日常、起居の單純な、無卿を慰む、生活の趣味に生きると思へば、ニッケル時計こそ、直接、生命の規程を握る玩具にしたい

腕時計だつたが痩せた腕手くびを、覆ふ程の大きなので、懷中時計にした、片方のカネを取つて、革ひもとメタルをつけた

安い時計で、LANCO と謂いてある

×

己のものは、玩具とすれば、そこらに數あらうが、長く己と共に失なはずあると息がかよつて居て、あれも、それも、區別し難い、己自身の臭ひがする

兒童の唄

須田いはほ

お窓の
外に見えてゐる
ポプラの木影は　涼しそう
むんと
むしてる敎室は
汗と埃が　にほつてる
長くて
たまらぬ四十分
皆んな首すぢ　たれてゐる
おい君
ねむつちやいけないよ
ソーラ先生の　眼鏡が光る
夏の
ひでりの敎室は
熱い空氣が　わいてゐる
汗を
ふき／＼お話してる
先生もとても　暑かろな

社會の今日

8月26日　△遼陽の大會戰（明治三七）△濱口元首相薨去△歌人坂正臣卒去（昭和六）△鹿島萩麿伯逝去（同七）

8月27日　△貝原益軒歿す（正德四）△明治天皇即位大禮（明治元）△ランカシア織布工大罷業（昭和七）

〇

八ケ嶺の裾野を廣み芒穂の、さやぐがなかに馬いななけり　島田春三

藥買り村へ入つて汗をふき　渡邊一角

講談 浪人長屋

(175)　日蛟武志作　月章道子畫

二階住ひ

『あら、緻彌さまは相州の方へ、四五日の豫定で旅に行かれてゐるから、お歸りなされたならすぐ、お連れ申すか、それとも使ひを出しますから、來てくださいな』

おとゝひの晩、淺草奥山の刺靑氏刺文の家で、靜香と別れる時、そんな、いゝいかげんなうそをいひつくろつてしまつたことを、お蝶は氣にかゝつてならなかつた

お蝶が、そんな嘘をいつたのは靜香を緻彌に引合はすと、緻彌のこゝろが、自分から離れてしまひはしないかといふ、嫉みに近い不安からである

――どうしよう……

芝露月町の、さゝやかな小間物屋の二階――江戸の春の暮れの、夕燒雲を眺めるともなく、お蝶はひとり窓際で、かんがへ込んでゐた

――この住家を、はつきりいつて來なかつたけれども、いつまでもこのまゝで知らぬ顏でゐるわけにはゆかぬ

と、おもつた

――露月町の、小間物屋の二階を、借りてゐるといつてしまつたからには、探されたら日には、わけなく、みつかつて、しまふかもしれない

この町内に小間物屋が、さう何軒もあるわけぢやなし

……それに、權吉はあたしの弟分だもの、あの晩直にでも、こつちへ連れてくるのが本當である

にもかゝはらず、いゝかげんにいひまぎらして、逃げるやうに別れてしまつたことを、おもひ出すと、さすがにお蝶は、氣がとがめられてならぬのだ

――權吉や、靜香さんはどうおもつたであらう……

うしろ暗い氣がした

――權吉のことだから、ひよつとすると、そこらの四辻へ來てうろ／＼探しまはつてゐるかも知れぬ……

お蝶は、通りを見下した裏通だから人影もすくない

どこかで子供たちが、陽氣に唄つてゐる聲も、晩春の日暮らしかつた

すつかり化粧した肌には窓からの微風が、こゝろよかつた

――今日は、いつもより遲いやうですこと

お蝶は緻彌の歸りを待ちわびてゐた

部屋の片側の隅には、夕飯の膳が用意されてあつた

江戶へ來て、この二階へ落ちついてから、もう半歲になる

二人は、それ／＼別々に毎日仇敵玄内の行衛を探してゐたが、日が經つにつれて、お蝶だけが外出を怠けて、家にゐる日が多くなつていつた

お蝶は、仇敵のことを忘れて家にゐて、二人の身の廻りの仕事をすることを樂しむやうに見えて來た

お蝶はもう緻彌だけを視つめて、樂しんで生きてゐるふうに見えて來た

碓氷の猪ッ鼻の谷底で介抱して以來、た蝶のこゝろに芽生えた男への思慕はかうした暮しだけで滿足し、仇敵玄内への復讐を忘れたのだらうか

おとゝひ、靜香とおなじやうに足裏の蜘蛛の刺靑をなほすべく、訪ねた刺靑師刺文の家

偶然にも、そこにゐた玄内を襲つたのだつた。が、お蝶はいまだに玄内のことも、靜香のことも緻彌にはうちあけなかつたのである

盛夏一筆書

島田忠夫

三、〇百貨店

八月一日から十五日間、三越本店に、警視廳主催の東京大工場展覽會といふのが開催された。そこに防音相談所ができて、警視廳の工場課から頼まれて、私も毎日出張することになつた

そこで、初めて百貨店勤めを十五日間味はつた。警視廳でも、課長、係長、警部、警部補といふ恐い顏の人々ばかりだが、さて、慣れぬ百貨店生活に、皆へこたれて了つた

『暑いですなア』『堪らんですなア』『敵はんですなア』と初めの二三日は云ひ合つてゐたが、だん／＼語氣が荒くなつて來た

『これは敵はん、足がはれとる。よう續かん』。『百貨店はどうもならん。島田君飽きたろ』。『なんとゝ暑さじや』

そこで、皆、ひとしく女店員たちに感服しだした

『こんな暑いとこに働いとる女子は感心じや。男子より偉いぞ』『全くや、よう續くわい』。といふ具合に

貸切自動車ハ親切迅速ノ
平タクシー
電話七九番ニ
御用命ヲ願ヒマス
平三丁目警察署通り
遠出ノ際ハ又御相談ヲ

磐城共濟病院（福島縣平町）（電話六四一番）
內科　院長 醫學博士 石山謙郎
小兒科　部長 岩手醫學士 平賀一忠（電話六四一番）
產人科　副院長 醫學博士 五十嵐雄二（電話三七〇番）
婦人科　部長 醫學士 坂本眞一郎
外科
耳鼻咽喉科
皮膚泌尿器病科　部長 醫學士 前澤正（電話二七二番）
花柳病科
X光線科　醫學博士 石山謙彥
物療科　技手 石山
衛生試驗所　獸醫 高後利雄
藥局　藥局長 藥劑師 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄
◎每日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始）每夜午後十時迄）
◎病室完備　入院隨意

內外建築材 建具材
入 阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利（改メ章）
電話四九四番

電話六四〇番
皆樣のタクシーへ
此度は夏にふさはしいすが／＼しい色彩の……
ニーアクション裝置
新車が入車致しました
自動車の御用命は電話六四〇番を御呼び下さる皆樣を新車と共に從業員一同御待ち申て居ります
車も揃ひましたから遠乘の御用命には特に御相談に應じます。
平町二丁目
尼子タクシー
電話六四〇番

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
『入院のお需めに應ず』
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……
直に家政婦を派出します。
……料金は極めて低廉です
親切叮嚀
姙產婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
平町紺屋町二（電話二二）
上原家政婦會
會主 產婆 上原通子

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

第一品質
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

東京優良星印
フトン袋
ロップ式 バンド式 各種
大小乘用式
旅行に 婚禮に 保存に 非常用に……
一家の御便益を一個で役立てます。
正 中野洋品店
平 二・電 五三

磐城鐵工機械同業組合

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
本店 水戶線下館驛前（電話五五番）
電話六一番
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡摩、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話平潟五四）
（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟
小名濱、江名濱

攻守鮮かに敵を封じ 古河軍强豪荒川を屠る
昨日鑛山野球の序奏戰

雨の爲め一日順延となつた東北六縣鑛山第二回野球大會第一日の一勝戰は二十四日仙臺市スポーツマン球場において擧行、午前十時三十九分後藤仙臺鑛山監督局長マウンドを踏み本壘の眞中に高目の堂々たる直球を投込んだ鮮やかな始球式を終つた後、荒川鑛山對古河炭鑛の劈頭戰は岩淵(球)三輪(壘)兩氏審判の下に荒川先攻で開始

荒 0 0 0 0 0 0 0 0 5 ―5
古 3 0 1 0 2 0 0 0 A ―6

古河の投手石田は松山高校京大で鳴らしたサウスポウ制球の欠をペースと球道の變化に補つてウマ味のある投球を見せた

古河 (遊)小林 (一)大瀧 (捕)佐藤 (投左)石田 (中)大槻 (三)角田 (右)吉田 (投)島﨑 (左)加藤 小野

○○○○○磐林對法曹團 軟式野球戰を再び明後二十七日午後中商校庭で開くと

滿洲行警官
福島で採用試驗

滿洲國巡査採用試驗は來月二日福島市公會堂で執行さるが受驗希望者は前日迄に福島聯隊區司令部宛願書提出の事、詳細は町役場兵事課へ

僚軍古河を辱めず 入山釜石を破る
七對六の際どいスコア

不戰一勝同志の釜石製鐵所對入山炭鑛の二勝戰は、日沒まで時間の許す限り試合を行ひ續行不可能となつた場合は殘りのインニングを二十五日午前七時三十分より續行する事に兩軍及び主催側の三者協定の下に午後五時八分より三輪(球)岩淵(壘)三氏審判、釜石先攻で開始

五回裏入山の攻擊に移る時日沒のため中止し二十五日午前七時半から續行する事となり、六時十七分閉戰、今二十五日續行七對六の際どい處で入山捷つた

山 本野妻坂面木澤井成
入 坂荻朝石上高西國金
(右)(二)(遊)(投)(一)(左)(捕)(中)(三)

釜石 0 1 0 0 1
入山 0 1 1 0 × 日沒で中止

入山は一昨年の全國中等校東北豫選に强剛遠野中學を一勝戰に破つた磐城中學の石坂を投手に當時の三番打者金成を三壘として優勝候補の一つであるに對し釜石は全くダークホースと見られ今大會好取組の一つである、石坂は凄味のある低目の速球に釜石打者の近くを攻め釜石の菊地投手もスナップの强い浮氣味の直球と內角へ落すアウドロを武器とし兩軍とも好守を布いて期待の如く好試合となつた

閑院若宮同妃平御通過

閑院宮春仁王殿下、全妃殿下には明二十六日午後一時五十八分平驛御通過仙台へ成らせられ、十一日午前二時二十分平驛御通過、內田鐵相尼從申し上げ御歸京遊ばさるゝ由

殘るは磐城
刮目さるる小坂との對戰

僚軍古河、入山何れも快勝し殘るは前年の覇者磐炭の內になつたが敵手は名だたる小坂鑛山であり對戰の結果が刮目されてゐる

一朝有事に備ふる 鄕軍の武術大會
二百數十爭覇の偉觀

帝國在軍會郡聯合分會主催第七回武術大會は來月二日(日曜日)晴雨に拘はらず午前八時から左記の通り開催するが今年から射擊が加へられた爲參加二百數十名に達する見込で盛況を豫想されて居る

射擊―神谷村東部射擊場
銃劍術―平商校雨天体操場、軍刀術―平第一校講堂

赤社萬國總會出席勸誘

萬國赤十字社總會は來る十月各國代表約

井上君行賞

平町柳町一一井上榮市君は日支事變の勳功により昨二十四日町役場から勳八等二百四十五圓を傳達された

○○○咽頭デフ 平町南町中島ツル子(四)は昨二十四日咽頭デフテリアと決定した

陸軍の食糧品として 小名濱鰯の大量購入
關係者座談會で縣產品好評

東北六縣並に長野縣等の農漁山村救濟の一助として生產品直接購入の趣旨から去る廿一、二の兩日深川の陸軍糧秣本廠において生產品見本展示會を開催したが廿二日には午前十時から同廠內においてこれ等について座談會を開き陸軍側より市川食糧課長その他各關係者並に東北六縣、長野縣の關係者等約百五十名出席したが種々展示會についての意見の交換を行ひ各品質について總評も加へた結果、本縣の凍豆腐眞綿せんまい乾しわらび、凍大根等が高許を博し、眞綿加工品の出陳は本縣一縣であつただけこれが加工についての質問等多數にあり陸軍側では外地にある、すなはち關東軍等の兵士達に用ひたき希望もあつたり一般的に高評であつた、なほ本縣川邊技師は廿三日近衛、第一師團の經理部をおとづれこれが一般生產品についての斡旋につき依賴してきたが同本部の話では、新鮮なものは腐敗なきものを希望してゐる尙は陸軍省では從來より本縣の小名濱より、鰯、鰹等購入してゐた旨であるが罐詰は今まで牛肉を用ひて居つたが近年全國一般に牛が減少してゐる狀態なので今度は鰯罐詰を購入したき話であり、本郡はこれに對し非常に有望視されてゐる、なほ生產品價問題については縣下生產者と協議して決

川瀨坑減水
近く死体發見か

既報―突如の出水から坑夫三名の溺死者を出した赤井村川瀨炭鑛では直に磯原炭鑛其他から借り受けた三十馬力のポンプ二臺を裝置しられて居ると目下一時間三十尺位宛極力排水中で遭難者の死體も今明日中には引上るものと觀定する筈である

盆の贈答から 煙草は斷然黑字
平出張所の賣上統計

舊盆前の贈答は煙草界にどれだけの響きがあつたか―去る一日以降二十二日迄平出張所の賣上高を聽くと口付では朝日の五萬八千九百六十個を筆頭に響の二萬八千九百六十個がこれに次ぎ、敷島は僅か三千百六十個、合計金額一萬二千八百六十一圓九十一錢八厘、兩切は大衆的のバットが三十萬五千九百五十個で依然首位を占め、外計二萬三千三百五十四圓三十八錢五厘、之れに刻み葉卷などを併せ合計四萬八千二百十三圓三十五錢で好況に向ふ炭鑛地帶の外本格的夏が少かつたとは云へ海岸方面にも相當はけた關係から昨年同期に比し約一割五分の增收であつたと

○○○○○新煙草『桃山』 新煙草『桃山』(罐入パイプ付五十瓦入五十錢、百瓦入れ九十錢)が平出張所へ二十罐到着したが賣れ足が非常によいらしいと

磐崎村會

昨二十四日午前十時から開き大字馬玉後任區長詮衡、及大字藤原宇川上地內道路改修費許可による豫算更正の件を附議した

無免運公處罰

植田町大字植田字金畑一四佐藤久四郞方自動車運轉助手小林三郞(二四)は六月十五日三島長太郞運轉のトラックに同乘東白川郡宮本村よりの歸途無免許で上遠野村大字根岸地內吉野製材工場前縣道約二丁を運轉したので今二十五日平區より略式で科料十圓に處された

持兇器賊を捕ふ
踊り歸りの加勢を得て 病院使丁のお手柄

今二十五日午前一時半頃平町大町木村外科病院小使室の北窓に長さ九尺の梯子をかけて賊忍び入り室內(六疊間)各所を物色中戶締中の同病院小使神谷村下神谷生れ猪狩吉彌(六四)さんが發見物も云はず賊の右利腕を取つて捻ち伏せ『泥棒』と連呼中侵入を認めた盆踊り歸りの高久村阿部忠衛(三七)同阿部勝英(二九)の兩君が飛び込み三人協力で縛り上げやうとすると賊は矢庭に懷中から刄渡り四寸餘の紙切り庖丁を取り出さうとしたが間もなく取り押へた、此奴は平町鎌田町五居住仙臺市北目町九四生れボール箱製造業强盜前科一犯嶽崎秀吉(三二)と云ふ去る六年四月二十九日微役五年の刑を終ねて東京豐玉刑務所を出獄後北海道、仙臺各地を廻り去る六月同町に移住して來た强盜ものであり平署の取調べに對しても『確に强盜する氣で入つたものです』と平氣で居るには係官も呆然としたと

案外の弱虫
殊勳の爺さん語る

怖るべき兇狀持ちを組み伏せた猪狩吉彌さんは今二十五日平署で

―消燈した六疊間に何か人の氣配があるので後から組み付いたが『出刄を出すぞ!俺を捕へると後の祟りが恐ろしいぞ』なんて大きな事を云つたが案外弱く直に壁に押しつけてやつたよと朗かに語つて居た、横山平署長は直に刑事協會に同氏の外前記應援二君の表彰方を具申した

音頭が過ぎて墜落
大工さん額を四針縫ふ

平町新川町居住大工職古內梅吉(三〇)は今二十五日午前一時頃泥醉の上驛前盆櫓に昇り音頭取り中足を踏みはずし高さ二間餘の高所から轉落前額部を挫傷直に田町安齋病院に舁ぎ込み四針を縫ひ全治二週間を要する見込み

怪力の雲水暴れる
警察を罵る救援の男と 昨夜平署へ檢束さる

雲水に假裝した平町堤の內無職秋田賓(三五)は昨二十四日午後十一時頃泥醉の上新川町丹野履物店前で飯野村チャンガラ念佛團十一名に先手を打たれたのが癪だと同團に喰つてかゝり暴行中を平署員に檢束され同署で取調べ中同人の知人である同町淺井長造(二七)が『俺の兄弟を何するんだ』とばかりに暴れ込んだので一緒に檢束された

電話買ひ度し
(姓名在社)

乘客增降減
平驛の盆景氣

盆踊見物客の爲臨時列車九本を新設各列車に一輛乃至二輛の增結をなし大童の活動振りを示した平驛の乘降客は(括弧內前年同日)二十四日 降―六、四三九(五、九四四)乘―四、四一五(五、七〇一)二十五日未明の臨時列車の乘―上り九六四(一、二三六)下り三二六(九五〇) 磐越―一三六(七三〇)乘は〇〇〇名の減を示し臨時列車は昨年より若干不成績であつた

迷ひ子三件
昨夜十五夜の人出

平署では昨二十四日より各新盆家には私服巡査を張り込ませ警戒してる程の雜沓で昨夜は迷子三件何れも間もなく判明歸宅せしめた

天氣の事から大喧嘩
加勢迄飛び出して―濱らしい活劇

豐間村大字沼の內漁夫大平勝次(四〇)は去る二十日午後一時頃同海岸で同じ漁夫仲間の高木金太郞(三五)と天氣の事から口論中物蔭から飛び出した同村魚行商大平一(三〇)が仲裁を裝つて高木の右腕を捻ち上げ春次と共に高木の頭部其他に全治二週間の打撲傷を負はせ今二十五日高木から平署に告訴された

身の不德に歸して 大方の好意に陳謝
農銀重役に洩れた金成氏 誠悃至れる挨拶狀を發す

貴族院議員金成通氏が過般の縣農工銀行重役改選に方り斯界に於ける好個のエキスパートとして各方面の輿望を一身に鍾め乍ら極めて錯綜せる事情に殃され不幸取締役に再選し得なかつた事は地方金融界の爲に少からず惜まれてゐるが該選擧に就て好意を寄せられた株主其他に對し此程左記悃々の情を紓べた挨拶狀を發した

謹啓 殘暑酷しき折柄益々御清祥奉賀候、今回縣農工銀行重役改選に際しては炎暑堪へ難き中特別の御後援にも拘らず紛糾月餘に亘りて遂に御期待に背くの結果を見候事是全く小生の不德と衷心深く御詫び申上候、當初縣農工銀行將來の爲め且つは縣內金融機構整備案等に就き多少自負にも似たる意見も抱懷せし爲め機會も得ば再選活動の希望を有し居り候へしも競爭固より好むに非ずとして一切の運動を差控へ、競爭形式に於かれたる仁に對し幾度か信を求めて得ず再三禮を盡くして通せず剩へ小生身邊に對する不當の浮說流動して小生一身の信用線破壞さるゝ事甚だしく遂に止むなく敢然出馬したるも全般的紛糾豫想を越へ、今日の結果を相見たる次第に有之候、正義正道を持して謬なしと確信するもの、勝敗論するなしとは申し乍ら多少の感慨なき能はず候、去り乍ら今は、白雲一片去りて悠々…馬首を轉じて爲す可き幾多に邁進致す可く候、重ねて御懇情に酬ひ得ざりしを深謝し今後の御指導御支援を切に希望する次第に御座候、御加餐を祈り上げ候 敬具

昭和九年八月 金成通

町の橫顏を示す 電報發着數
三丁目が第一位

平町一般の動靜を卜知し得る最近十日間の發着電報は

町別	發	着
三丁目	八八	九五
田町	三八	七二
南町	四八	四〇
二丁目	三〇	五四
一丁目	三六	四七
四丁目	三三	四四
白銀町	一七	三三
播槌小路	一九	二九
五丁目	二二	二一
新川町	二三	一八
古鍛冶	一三	二四
紺屋町	一九	一九
長橋町	一五	一八
材木町	一五	一七
仲間町	一六	一五
大町	一四	一七
月見町	一七	一〇
鍛冶町	一五	一二
立町	一六	一〇
揚土	七	一〇
十五丁目	八	七
鎌田	五	一〇
磐城跡	二	一〇
六間門	五	六
北目	四	五
堂ノ前	三	六
佃町	六	二
胡摩澤	三	五
七軒町	一	七
杉平	一	七
研町	四	三
八幡小路	一	六
三倉町	一	五
高月	一	四
柳町	二	三
仲町	三	二
正月町	四	〇
藥王寺臺	一	三
久保町	一	二
四軒町	一	二
小太郞町	二	〇
櫻町	一	〇
道匠小路	〇	一
手掴	〇	一
堤の內	一	〇

尙市外は

	發	着
好間	九	一六
平窪	一〇	一一
神谷	一六	一一
高久	一一	四
飯野	八	七
赤井	八	五
夏井	三	九

で町內では矢張り大平の心臟街三丁目が斷然頭角を現はして居り市外では人口密度に比例して好間が第一位を占めて居る

自己の力も加はり他の力も添へられ喜あり▲三碧の人 依賴すれば意外の失敗を招くに至る危險日▲四綠の人 物事等閑となりて障碍を投ずる基となる日▲五黃の人 口先より實行を旨とし勤勞を厭はざれば吉▲六白の人 堅實なる信念に依りて終始一くわんの志有ば吉▲七赤の人 物事遲々として進まざれど焦れば却て不利▲八白の人 向ふ所敵なき如く勝利を博すべき幸運の日▲九紫の人 意氣沈滯す人の爲め足をすくはるゝ如き凶日

新八月二十七日 月曜 舊七月十八日 庚午 赤口 開 心宿

▲一白の人 奮發心を起し元氣强く進めば志望を通達す▲二黑の人 形勢次第に好轉し元氣十分なれば益効あり▲三碧の人 寸進尺退して効果擧らぬ日守成が寧ろ安全▲四綠の人 思はざる方面より龜裂を生じ變轉甚しき日▲五黃の人 堅實を以てすれば相當の効果あり油斷禁物▲六白の人 知らず識らず深入せんとする日分別が肝要▲七赤の人 根を張り芽を延ばす幸運日次第に光明輝く▲八白の人 稀有の良運にしてえん談金談起業計畫に吉し▲九紫の人 我意を振へば家庭の風波あり人の同情薄し

新八月二十六日 日曜 舊七月十七日 己巳 大安 收 房宿

諸判定鑑證 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 平運にして從來の澁滯も次第に薄らぎて吉▲二黑の人

二十六日
日出 五、〇七 月出後 六、五八
日沒 六、一八 月沒前 六、二六
滿潮 前 五、五〇 後 六、五〇 干潮 前 〇、一五 後

二十七日
日出 五、〇八 月出後 七、二八
日沒 六、一七 月沒前 七、三七
滿潮 前 六、三五 後 七、一〇 干潮 前 〇、〇三 後 〇、四五

お醬油は……ヤマフル
釀造 山崎合名會社
磐城郡平町 電話(營業部一〇番 本店二七番)
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

平町田町 高久病院 (電話五三一番)
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽[illegible]
藥劑士 佐竹菊雄
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

內科一般 川井安子
川井內科診療所
平町南町六五(舊居)
電話二四三番